

ボジョレー速報 2021 年

ボジョレー・ヌーヴォーの収穫がついに始まった！

2021 年は、フランスのワイン産地ほぼ全域に遅霜が降りるという衝撃的な幕開けから始まり、その後ボジョレーでは雹、長雨による病気の蔓延など、天候的に厳しいミレジムだった 2013 年をさらに超える試練に晒されている状況だ。一方で、ブドウの栽培にとって厳しい年にもかかわらず品質に恵まれた 2021 年とサイクルが似ているため、ワインの品質に期待する生産者も多い。果たして 2021 年はどうのようなキャラクターのワインになるのか!? カリーム、ジャン、ケヴィン&フレッドに醸造も兼ねた最終状況を聞いてみた！

☆ カリーム・ヴィオネ

収穫日は予定通り 9 月 13 日にスタートした。今年は霜の影響により、各ブドウの成熟度合いが大きな格差があった年で、収穫したブドウは完熟しきった房とロゼ色の少し熟しが足りない房の両方が混じっていた。ワインのキャラクターは、近年続いたボリューム豊かなタイプではなく、ボジョレーらしいチャーミングなワインに仕上がることは想像できたが、実際にワインになるまでアルコール度数もリンゴ酸の量も分からないまさにぶっつけ本番の収穫だった。結果的には、酵母の勢いも非常に活発で、アルコール度数は 11.5%前後と軽く、発酵は順調すぎるくらいうまく行った。さらに、唯一心配だったマロラクティック発酵も、リンゴ酸の数値が高かったにもかかわらずものの 10 日間で完全に終わり、何もしていないのにまるで教科書のような終わり方をしてくれた！出来上がったワインは、色合いが明るく、果実味もとてもチャーミングで、フレッシュな酸が効いたまさに自分好みの味わいに仕上がっている！現在、ワインの清澄作業中だが、フィルターを使わず自然に任せて澱落しをしているので、もしかしたら瓶詰め後に酒石酸が澱として溜まるかもしれない。だが、味わいには全く支障がないということをはっきりと伝えて置きたい。



醸しを終えたブドウをデキュヴァージュする風景



デキュヴァージュしたブドウをプレスしたワイン

☆ ジャン・フォワヤール

収穫日は当初 9 月 16 日を予定していたが、16 日前後に雨の予報があったので、結局 2 日早めて 9 月 14 日からスタートした。収穫したブドウは、病気が猛威を振るったにもかかわらず、見た目が予想以上にきれいな状態を保っていた。ミルデューの被害に遭った部分も収穫ハサミで軽くはじくだけで簡単に落ちるくらいきれいに乾き切っていたので選果がスムーズだった。発酵も順調。梗が若干未熟なブドウも多く混ざっていたので、マセラシオンは 1 週間と軽めに抑えた。今年のブドウはリンゴ酸の量が多く、マロラクティック発酵が長引く心配があ

ったが、実際蓋を開けてみると 2 週間もかからず、今は完全に発酵を終えて瓶詰前のワインの清澄過程に入っている。今年は、ブドウの収量ははじめなくらい少ないが、ワインの品質はとても満足している。エレガントかつジューシーな、まさにボジョレー・ヌーヴォーらしいワインに仕上がっている！



まさに今収穫というタイミングの完熟したブドウ



ジャンの収穫風景

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

収穫は標高の低いレーニエ村の畑が 9 月 14 日、そして、標高の高いマルシャン村の畑は 9 月 25 日にスタートした。収穫したブドウは、病気の猛威が遭った割には比較的きれいだったが、今年はそこに満を持して選果テーブルを新しく導入し、腐敗したブドウを徹底的に選果した！ワインの発酵も順調で、レーニエ村のブドウはすでにアルコール発酵もマロラクティック発酵も無事終わり、また、マルシャンのブドウはマロラクティック発酵が終わるのを待つのみとなった。今年はボジョレー・ヌーヴォー出荷日を考慮し、収穫の早かったレーニエ村のワインをベースに、間に合えばマルシャン村のワインを 3 割ほどアッサンブラージュできればと考えている。ワインのアルコール度数は 11.2%とライトな仕上がりで、味わいはまさに正真正銘、果実味溢れる Glouglou（グビグビ飲めるような）ワインに仕上がっている！



マセラシオン最中のレーニエ村のブドウ



ヌーヴォーも温度管理をしっかり行っている

久々にヌーヴォーらしいフレッシュで果実味溢れるワインに仕上がった 2021 年！ミレジムの年には、霜、長雨、病気の蔓延、冷夏とまさに生産者泣かせの年だった。3 生産者ともブドウの収量の大幅ダウンはやむを得ないが、出来上がるワインに対してはとても満足している様子！あとは 11 月 18 日、お手元にヌーヴォーが届くのを待つのみ♪

(2021 年 9 月 22 日訪問&10 月 13 日レポートより)

ボジョレー速報 2021 年

ボジョレー・ヌーヴォーの収穫が直前に迫っている！

2021 年は、フランスのワイン産地ほぼ全域に遅霜が降りるといって衝撃的な幕開けから始まり、その後ボジョレーでは雹、長雨による病気の蔓延など、天候的に厳しいミレジムだった 2013 年をさらに超える試練に晒されている状況だ。一方で、ブドウの栽培にとって厳しい年にもかかわらず品質に恵まれた 2012 年とサイクルが似ているため、天候次第では再びワインの品質に恵まれることを期待する生産者も多い。いずれにせよ、もう待ったなしの段階に迫ったカリーム、ジャン、ケヴィン&フレッド！彼らの収穫直前の心境を聞いてみた！

☆ カリーム・ヴィオネ

収穫日は前回の予想と変わらず 9 月 13 日からのスタートを予定しているが、初日に収穫したブドウの糖度の状況によっては 16 日から再スタートを切るかもしれない。8 月中旬から 9 月 1 日現在までの 3 週間は、7 月までの悪天候と違いほぼ毎日快晴に恵まれ、遅れていたブドウの成熟スピードも徐々に間を縮めてきている。だが今年は、春の霜の影響によりブドウの成熟がバラバラで、すでに収穫できるくらい完熟したブドウがある反面、まだヴェレゾンの終わっていない青いブドウもあり、そのことが収穫のタイミングを難しくしている。ちなみに、9 月 13 日、16 日の収穫予定日は、あくまでも毎日快晴であることが前提で、途中雨が降るとまた収穫日を仕切り直さなければならない。いずれにせよ、今年は近年続いたローヌのようなフルボディーのワインでない、ボジョレーらしいワインに仕上がることは間違いなさそうだ。ただ、品質という面ではこれから収穫までの十数日間の天候が重要なカギとなりそうだ。



ヴェレゾン（色付き）が完全に終わっていないブドウ



ヴェレゾンを終えた果汁をたっぷりのブドウ

☆ ジャン・フォワヤール

収穫日は 9 月 16 日を予定している。このところ続く快晴のおかげで、大幅に遅れていたブドウの成熟スピードにも勢いが増している。また、ミルデューや黒痘病の被害に遭ったブドウも、快晴と北風により自然に乾き落ちつつあり、このままの無事に収穫までたどり着ければ、エレガントで高品質なヌーヴォーも期待できそうだ。今年は例年と比べ、収量はすでに 50%を切っていて、経営的にはとても厳しい状況にある。それゆえ、今あるブドウは全て刈り取るつもりで収穫に臨むつもりだが、厄介なのは、天気予報が 9 月 7 日から数日間局地的に天気が崩れると予報していることだ。雨の量にもよるが、ブドウはすでに果汁の量が十分満たされているため、特に完熟の早いブドウはこれ以上水を吸収すると破裂腐敗の恐れがある。場合によっては、未熟なブドウを切り捨て収穫を早める必要があるかもしれない。今後の天気次第では難しい選択を迫られそうだ。



完熟したブドウと未熟なブドウが混在している



ミルデューにやられ乾燥しきったブドウ

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

収穫は標高の低いレーニエ村の畑が9月15日、そして、標高の高いマルシャン村の畑が9月25日前後を予定している。成長ペースが大幅に遅れていたブドウも、8月中旬から天気の回復が見られたおかげで、やっとエンジンがかかり始めている。今のところヌーヴォーは熟成の早いレーニエ村のブドウをメインに考えているが、今続く好天気が収穫まで持ち堪えるのであれば、マルシャン村のブドウをメインにすることもまだ諦めていない。ただ、今年の難しい点は、春の遅霜によりブドウの成熟がかなりまちまちであること。マルシャン村でもすでに完熟の段階に入っているブドウがある一方で、まだヴェレゾンの終わっていない未熟なブドウもあり、また、収量の少なさがブドウの成熟度合いの格差に拍車をかけている。理想は今の快晴が続き、未熟なブドウの完熟に合わせて一気に収穫することだが、最悪マルシャン村のブドウは2回に分けて収穫を試みるかもしれない。今年は収穫の最後まで全く油断できない難しい年という一面はあるが、他方で、ブドウにはたっぷりと果汁が含まれて清涼感があり、久々にボジョレーらしいチャーミングなワインができそうな期待感がある。



同じ木に生る完熟のバラバラなマルシャン村のブドウ



カリウム不足により葉の色が赤く変色している

長く続いた悪天候も終わり、終盤にかけてブドウの成熟は急ピッチに回復傾向にある。収穫まで日数も残り僅かだが、この残された期間の天候が品質を大きく左右しそうだ！さあ、次は遂に収穫がスタートする！果たして2012年のように最後にミラクルが起こるのか！？次回のレポートもお楽しみに！

(2021年9月1日訪問レポートより)

ボジョレー速報 2021 年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2021 年は、フランスのワイン産地ほぼ全域に遅霜が降りるという衝撃的な幕開けから始まり、その後ボジョレーでは雹、長雨による病気の蔓延など、天候的に厳しいミレジムだった 2013 年をさらに超える試練に晒されている状況だ。一方で、ブドウの栽培にとって厳しい年にもかかわらずワインの品質的にはトップだった 2012 年にもサイクルが似ており、8 月の天候次第では再びミラクルが起こるのではと期待する人たちも多い。いずれにせよ、例年以上に難しい舵取りを迫られるのが必至なカリーム、ジャン、フレッド&ケヴィン！果たして彼らはこの難局をどのように切り抜けて行くのだろうか!?

☆ カリーム・ヴィオネ

6 月の終わりで降雨が降り続く日が続いている。7 月に入っても、雨の降る日は日中の気温が 23 度前後と涼しく、逆に晴れの日には気温が 30 度を超すような蒸し暑い天気が断続的に続き、この不安定な天候がミルデューや黒痘病を蔓延させる原因となっている。ヴェレゾン（ブドウの色付き）は 8 月 8 日から始まり、前年よりも 3 週間遅れている。今年は日照量不足のため、なるべくブドウが栄養不足にならないように夏季剪定は行わず、伸び切った枝も束ねて紐で止める昔ながらの方法でまとめた。この方法が功を奏したのか、化学肥料を与えている隣人の畑よりも葉の色が青々としていて、ヴェレゾンも早い印象がある。収穫日はこれからの天候にもよるが、とりあえず 9 月 13 日前後を予定している。今年はいつもの以上に選果に苦労しそうだが、今のところ思っていた以上に健全なブドウの房が数多く残っているし、これから天候が回復すれば、2012 年のような当たり年のミレジムも決して不可能ではないと思う。



枝を束ねて止める昔ながらのパリセをしたブドウ



今まさにヴェレゾン最中のカリームのブドウ

☆ ジャン・フォワヤール

今年は雨が多く、収量的にはとても厳しい年となりそう。7 月も結局雨が止まず、しかも運悪く 2 台あるトラクターが 2 台ともエンジントラブルを起こしてしまい、その間のボルドー液の散布が遅れてしまったため、ミルデューや黒痘病がブドウの房に繁殖してしまった。急遽、季節労働者を増員し人海戦術で散布を行い、辛うじて今は繁殖を抑えているが、その間に受けた被害により少なくとも 50%は減収になることは間違いないだろう…。今年は我々のようなビオの畑だけでなく、除草剤や農薬で守られている畑も同等に病気の被害に遭っている。特に除草剤がほとんど効かないエリゲロンというキク科の雑草が今年は大量発生し、例えば私の隣人の畑はエリゲロンに埋め尽くされ、その上に病気が蔓延したためブドウが全滅した。今年は、そのような壊滅的な畑が除草剤や農薬を撒く生産者に多く見られるのが大きな特徴だ。

ヴェレゾン は 8 月 10 日、前年よりも 3 週間遅く始まった。収穫日は今のところ 9 月 20 日前後を予定している。いつもより収穫が遅いので、ヌーヴォーの仕込みがギリギリにならないかが心配だ。



前年よりもヴェレゾンが3週間遅いジャンのブドウ



エリゲロンに埋め尽くされた隣人の畑

☆ フレデリック・コサル&ケヴィン・デコンブ

ヴェレゾン は、レーニエ村の標高低い畑のブドウが 8 月 10 日。一方、マルシャン村の畑のブドウは成熟スピードがまちまちで、ほとんどのブドウはまだ青いが、中には標高が高いのにすでに 8 月上旬から色付きが始まっているブドウも一部ある。今年はまさに雨との戦いで、トラクターが入られない分、散布作業はほとんど人海戦術に頼った。そのおかげもあり、どうにかミルデューの蔓延は防ぐことができた。だが、ボルドー液の効かない黒痘病の勢いは止めることができず、今も蔓延し続けている。また、今年は長雨の影響によりブドウのマグネシウムとカリウム不足が起こり、葉が赤く変色する現象が所々で見られる。赤くなった葉はうまく光合成ができないので、ブドウの成熟が遅くれるリスクがあり、特にマルシャン村のブドウ畑でその現象が多く見られることから、今年のヌーヴォーは仕込み期間も考慮して、熟しがより早いレーニエ村のブドウをメインにすることも考えている。収穫日は今のところレーニエ村のブドウが 9 月 15 日前後。そして、マルシャン村のブドウは 9 月 25 日前後を予定している。全体的な収量は 30%~40%減を予想。ただ、まだ黒痘病が収まっていないので油断はできない。



成長の遅れを取り戻すマルシャン村のブドウ畑



一部黒痘病の被害に遭うブドウ

引き続き今年の不安定な天候に悪戦苦闘を強いられている 3 生産者。幸い予報では、これから天候は回復に向かい暑い夏が戻ってくるとのことなので、2012 年のように最後にミラクルが起こることを大いに期待したいところだ！次のレポートもお楽しみに！

(2021 年 8 月 13 日訪問レポートより)

ボジョレー速報 2021 年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2021 年は、フランスのワイン産地ほぼ全域に遅霜が降りるという衝撃的な幕開けから始まった。各地で霜による甚大な被害がもたらされる中、ボジョレーは幸いにして他の地域よりも被害が少なかった。だが、この寒波の影響によりブドウの成長は例年よりも 3 週間ほど遅れている。その後も冷涼で雨の多い不安定な天候が続いていて、このままのペースで行くと収穫の大幅な遅れ、そしてブドウの病気蔓延のリスクと不安要素が目白押しだ。今年は例年以上に難しい舵取りを迫られそうなカリーム、ジャン、ケヴィン&フレッド！果たして彼らはこの難局をどのように切り抜けて行くのだろうか!?

☆ カリーム・ヴィオネ

開花は 6 月 8 日頃から始まった。去年に比べると 3 週間ほど遅い開花だ。今年は例年になく雨の多い年で、3 月～5 月の間に 400 mm とすでに半年分の雨が降り、さらに 7 月現在も不安定な天候が続いている。4 月 8 日には大規模な霜が降りたが被害はほとんどなかった。その後 5 月まで雨の多い日が続いたが、ちょうど開花の前に雨が止んでくれたおかげで花流れの被害はなく、ブドウの房も例年並みに付いている。6 月の開花時期は天候に恵まれ、これから本格的な夏が到来するかと思いきや、6 月終わりからまた天気が崩れ始めた。7 月 3 日には雹が降り畑の一部が当たったが、ほとんどの畑は無事だった。7 月中旬現在も雨と気温の上がらない不安定な天候が続いているため、ブドウの葉にはミルデュー、房には黒痘病がちらほら見え始めている。病気の対策を立てようにも、雨により畑がぬかるんでいるためトラクターを中に通すことができず、もっぱら散布は畑の外からボルドー液を噴射する方法に頼っている。とにかく雨が止まないことには見通しが立たないような状況だ…。



6 月中旬のサンティエヌ・ズリエールのブドウ畑



開花を終えたばかりのブドウ

☆ ジャン・フォワヤール

開花は 6 月 5 日頃から始まり順調に終わった。前年に比べると 3 週間ほど遅い開花だが、近年がどちらかというと温暖化により早すぎただけで、20 年前は 6 月の開花が当たり前だったことを鑑みると、むしろ今年はノーマルなサイクルに戻ったとポジティブに捉えている。今年は 4 月 8 日にボジョレー全域に渡り大規模な霜が降りたが、幸い大きな被害はなかった。ブドウの房も例年並みに付いていて、今のところ収量の心配はしていないが、ただ、5 月と 7 月の降雨量が多く、病気の繁殖しやすい環境が整っているので注意が必要だ。病気の対策としては、ミルデューに対し主にコルシカのオレンジのエッセンスを使用し、できるだけボルドー液の散布量を減らすよう努力している。これから天候が回復し夏の熱い太陽が戻ってくることを期待したいが、天候次第では日照量の乏しかった 2013 年をさらに上回る厳しい年となる可能性もあるのでまだまだ気が抜けない。



前年よりも3週間成長サイクルの遅いジャンの畑



霜の影響のない開花を終えたばかりのブドウ

☆ フレデリック・コサル&ケヴィン・デコンブ

レーニエ村の標高低い畑のブドウの開花は6月5日、そして標高の高いマルシャン村の畑のブドウの開花は6月14日に確認をしている。当初は大幅に開花が遅れると予想していたが、実際蓋を開けてみると例年並みの開花日に収まったことに対しかなり驚いている。今年は4月8日にマルシャン村の畑が霜に当たり30%ほどの減収にあった。その後も雨の多い不安定な天候が続いていたため、ブドウの成長サイクルは1ヶ月ほど遅れていた。だが、5月終わりに天候は回復。開花の時期も含め3週間ほど真夏日が続いた。畑に十分に水があったこと十分な日照量が重なったことにより、驚くほどのスピードで一気に新梢が伸びたのであろう。この3週間の間に成長のギャップを一気に埋めた。ただ一方で、成長が速すぎる枝は強度が弱く、強風により多くの枝が折れてしまった。また、霜の影響なのか、今年はいつもの以上に結実不良のブドウが多い。6月終わってから再び雨が多く気温の上がない不安定な天候が続いている。病気はレーニエ村の畑でミルデューが確認されたが、トラクターを使わず人海戦術を使ってボルドー液を散布した結果辛うじて抑え込むことに成功している。これからの天候次第だが、今年は猛暑がない分ボジョレーらしいスレンダーで果実味がエレガントなヌーヴォーが期待できるかもしれない！



成長の遅れを取り戻すマルシャン村のブドウ畑



ブドウの開花は6月14日から始まった

3生産者とも今年の不安定な天候に悪戦苦闘を強いられている様子がひしひしと伝わる。だが、一方で、4月の霜による大きな損害がなかったことと開花が順調だったことは朗報！また、近年日照りにより、ボリューム感が目立つ味わい傾向にあったが、今年は久々にみずみずしくエレガントなワインに仕上がろうな予感がする。こういう厳しい年は、まさに生産者の実力と個性が如実にワインに反映するのが魅力で今年は興味深いミレジムとなりそうだ！次のレポートもお楽しみに！

(2021年6月15日訪問(写真) & 7月13日電話メールレポートより)